

# 講演会 & ライブ な日々⑤

シンガーソングライター

ふるかわひであき

この春にユング心理学のシンクロニシティ（共時性）をテーマに講演をした。

シンクロニシティというのは、誰かの事をぼんやり考えていたらその人から連絡が来たとか、なんとなく胸騒ぎがしていたら、身内に何か不幸なことが起こっていたとか、道に迷っていたら今までずっと自分が行きたかったところにたどりついたとか、自分にとってとても意味のある偶然のことである。

シンクロニシティは「数字」「物品」「予兆」など細かく17種類に分けられている。（興味のある人は独学してください。ユング心理学関連の本には必ず書かれています）

心理学会での発表ではないので、どなた様にも分かりやすく話さなければならぬ。

シンクロニシティという目に見えない力を説明するのは難しい。

何かの宗教や流行のスピリチュアルと誤解されるかもしれない。

そんな不安を持ちながら告知すると、たくさんの方に来てもらった。

講演会が終わると、参加されたみなさんからたくさんの感想を頂いた。

今まで多くの講演会をしてきたが、こんなにたくさんの感想をもらったのは初めてだった。

聴衆が聞き入ってくれた確かな手ごたえと、話した後の満足感の両方揃う幸せはめったにないが、今回はそれに恵まれた。

それで満足していればいいのだが、それをもっと深めたいという欲に駆られて続編をこの夏に企画した。

誰でも体験できるこの不思議なシンクロニシティという現象はなぜ起こるのかをテーマにした。

心理学や哲学、宗教だけでなく、科学的にシンクロニシティを説明できないだろうか……。

いろんな専門家から情報を集めた結果、「量子物理学」という学問にたどり着いた。

この「量子物理学」はアインシュタインや朝永振一郎など、ノーベル物理学賞に輝いた多くの科学者が取り組んでいる。

さっそく独学で学びだしたのだが、これがかなり難解で、何冊も専門書を読みあさり、わからないところは物理を専門にしている大学の先生のところまで行って学んだ。

その結果、シンクロニシティに迫る考察ができた。

ざっくり説明すると、この世の物質の全ては量子という最小単位で出来ており、この量子は波の性質と粒子の性質を併せ持ち、人間の意識と深くつながっているということだ。

これだけを文章にしてもなんのことやらさっぱりわからない。

だけど私は、学ぼうちにかなりのひらめきを得た。

あとはこれをみなさんにわかりやすく説明するだけだ。

しかし、これが大きな落とし穴になった。

量子物理学の話をするうちに、聴衆のみなさんの頭の上にクエッションマークが浮かんで行くのがよくわかった。

それでも私は冷や汗と脂汗をかきながら、パワーポイントを駆使し、こころの中で「なんでわからへんの〜！」と叫びながら必死で説明した。

講演が終わり、後日にまたたくさんの感想を頂いた。

その多くが「今回は難しくて意味がわかりませんでした」というものだった。最初の講演でやめておけば良かったという後悔にさいなまれたのだが、けどやっぱりもっと深めたいという思いは消せなかつただろう。

もらった感想の中にすごく役に立ったという人が何人かおられた。

しかも私が話した以上に深いものを感じておられ、私もまたその感想から学べた。

講演会というものは、自分の考えや知識を他者に伝えるという行為だが、前回と今回の講演会では、話している自分が一番深く学んでいるように思った。

しかも、自分がより深く学ぶのは、耳に優しい感想ばかりに囲まれたときではなく、あまり歓迎したくない厳しい感想をもらったときだと思った。

耳に優しい感想をもらった後よりも、厳しい感想をもらった後の今のほうがはるかに次回の意欲がある。

今回の感想が厳しいものだったので、次回は人が集まらないかもしれない。

何かを人に伝えるという行いは、常に参加者がゼロになるかもしれないというリスクがある。

そのリスクを負いながら、今も次回の講演会の構想を楽しんでいる。